



聞き手
堀井 良殷 (大阪21世紀協会理事長)

のレビューを観ておられたというのは、大阪人はそうした季節感を楽しんでいたんだと思います。

桜花 OSKは毎春、大阪の松竹座で『春の踊り』をさせていただいています。だから「大阪の春はOSKから」と言ってもらえるととても嬉しいですね。

堀井 今年の夏は、京都の南座でも公演をなさるんですね。

桜花 はい。7月10日から1週間、坂本龍馬をテーマにしたレビューとOSKのグランドレビューの2部構成で行います。私は坂本龍馬役をさせていただきます。

脇田 ある演劇評論家が、日本のレビューはじつに美しいと高く評価されましたよ。

桜花 うれしいですね。「歌の宝塚、踊りのOSK」と言われるように、踊りにはかなり

力を入れています。また、私たちは日本の歴史をミュージカルで表現したいという思いも強く持っています。レビューは世界のどこにいてもありますから、私たちは日本ならではのものにも力を入れたいと。

堀井 阿倍仲麻呂の役作りでは、どのような苦労がありましたか。

桜花 とくに苦労というのはありませんが、私は役のゆかりの地をめぐるのが好きで、阿倍仲麻呂の役をいただいたときも安倍文殊院へ行きました。そこで阿倍仲麻呂が見た風景や考えたことに思いを馳せることで“場の力”がいただけるように思います。上海万博での公演がきまったときも、中国に行きました。

堀井 脇田先生は大阪歴史博物館の館長として、大阪や関西を元気づける博物館の役割や課題について、どのようにお考えでしょうか。

脇田 京都や奈良で生活している人は、自分たちは歴史的な土地にいるんだという思いをはっきり持っていますが、大阪の人にはそういう感覚が少ないように思います。それではちょっと困る。大阪というのは長い歴史をもった大都市ですから、私たちはそれを発信しなければならないと思っています。当館では、実際に難波宮の柱跡や大極殿跡が見られるような工夫をしたり、展示テーマを広げたりして、大阪に愛

着がもてるような工夫をして来館者を増やすことに努めています。

堀井 桜花さんは斑鳩で生まれ育って、奈良の歴史に対する思いはいかがですか。

桜花 思いは強いですね。ここで日本の国がはじまり都が生まれたんだと思うと、ものすごいエネルギーと興味深いものを感じます。あやめ池遊園地にOSKがあった時代は、大海人皇子(おおあまのみこ)や持統天皇など、万葉時代をテーマにしたものを多く上演していました。今になって思えば、それは日本発祥の文化をもっと知ってほしいというメッセージだったと思います。

堀井 なるほど。脇田先生が幼いころ観たOSKのレビューを覚えておられるように、子どものころに楽しんで歴史を知り、記憶にとどめてもらいたいですね。そうして自分たちが生活している場所に誇りや自信をもち、歴史や文化という広い視点で国づくりに思いをさせてほしいと思います。また、その拠点的役割をも果たす歴史博物館の存在は大きく貴重だと思います。私たちも、文化の国土軸の上に、未来の幸せの国づくりを考える努力をしていきたいと思っています。本日はありがとうございました。

(2010年6月4日/大阪歴史博物館にて)

OSK日本歌劇団

宝塚歌劇団、松竹歌劇団(SKD)と並ぶ、日本の三大少女歌劇のひとつ。1922(大正11)年に松竹楽劇部として創設され、1943(昭和18)年、大阪松竹歌劇団(OSK)に改称。1957(昭和32)年に「株式会社大阪松竹歌劇団」として松竹から独立。1971(昭和46)年以降は近鉄グループの子会社となるが、2003(平成15)年に一度解散した後、劇団員有志により再結成。2009年より株式会社OSK日本歌劇団として独立。「OSK」は、旧名「大阪松竹歌劇団」の略。

松竹座

1923(大正12)年、大阪市中央区道頓堀にできた大阪初の洋式劇場。柿落としには映画の幕間に松竹楽劇部第1回公演(アルルの女)が上演された。正面玄関のアーチは大阪大空襲でも倒壊しなかった。

アーサー美鈴

OSKの往年のスター。桜花昇ぼるさんは「わが歌ブギウギ 笠置シズ子物語(2005年12月~06年2月 大阪松竹座他)」に外部出演し、ユリ五十鈴役として、アーサー美鈴を演じた。

大阪劇場

1933(昭和8)年~1967(昭和42)年、大阪・道頓堀にあった映画館。当初は東洋劇場と呼ばれていたが、開館翌年に松竹系企業が買収し「大阪劇場」と改称。OSKレビューと松竹映画の2本立て興業を行い、大劇(だいげき)と親しまれた。

レビュー

歌、踊り、音楽を組み合わせ、衣裳や照明などの豪華な演出を効かせたショー形式の舞台芸術。

ミュージカル

音楽を主体とし、芝居、歌、ダンスなどが一体となって劇的效果を高める演劇や映画。全編を通して一貫したストーリーで進行するものが多い。

阿倍仲麻呂(あべのなかまろ)

698~770年。奈良時代の遣唐留学生。吉備真備らとともに入唐。玄宗に仕え、李白、王維ら唐の著名文人と交流した。753(天平勝宝5)年、帰国の途上で難破。戻って唐で通算54年間を過ごす。